

淀川河川公園 上流域 地域協議会

淀川河川公園 上流域 公園整備計画（案）

目 次

1. 上流域の概況	P 2
2. 各地区の現況特性・整備計画等	
■背割堤地区	P 3
■島本地区	P 6
3. 参考資料	
上流域の概況（三川合流域）	P 9

1. 淀川河川公園 上流域の概況

(1) 現在の開園状況など

1. 現在の開園状況

- ・ 上流域全域では、「背割堤地区」「大山崎地区」「島本地区」の3地区が実施され、供用されている。

2. 基本計画に基づくゾーニングの状況

- ・ 上流域は、「自然環境保全・再生ゾーン」「水辺環境保全・再生ゾーン」及び「多目的利用ゾーン」が設定されている。
- ・ 「自然環境保全・再生ゾーン」は、水無瀬・楠葉などの未開園区域に設定されている。
- ・ 「水辺環境保全・再生ゾーン」は、全地区に設定されている。
- ・ 「多目的利用ゾーン」は、「背割堤地区」「大山崎地区」「島本地区」の淀川河川公園の既開園地区のほか、自治体の占用公園である「桂川河川敷公園」「かわきた自然運動公園」に設定されている。

3. 当面の整備計画検討の範囲

- ・ 今後およそ5年程度を目途として、整備・再整備を実施することが見込まれる以下の地区について検討をはじめることとする。

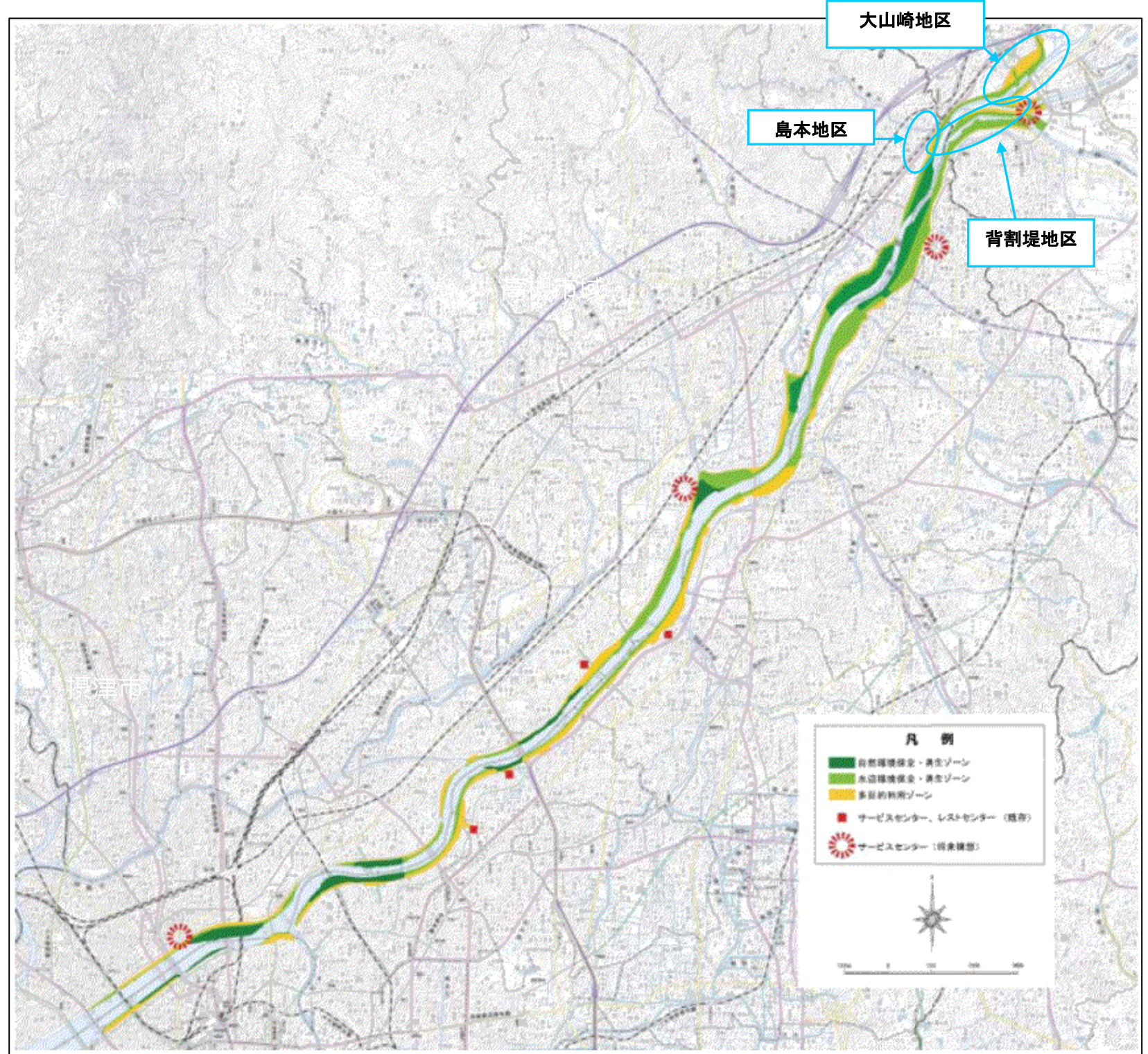
■ 背割堤地区

- 背割堤地区の既開園区域における周遊園路、水洗トイレの整備、未開園区域におけるサービスセンターの整備 など

■ 島本地区

- 既に開園区域における運動施設の多目的広場への転換 など

ゾーニング計画図



2. 各地区の現況特性・整備方針等

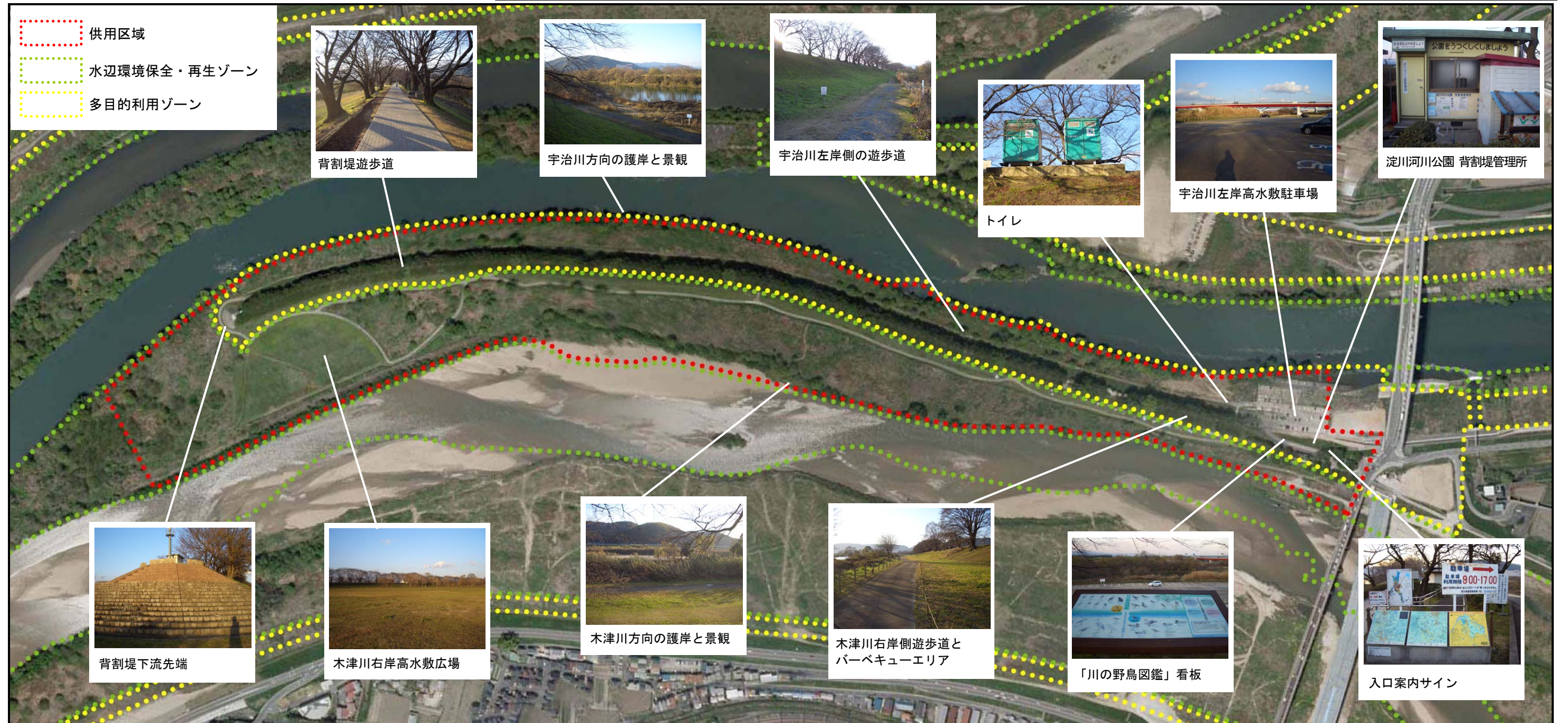
■背割堤地区の現況

年間利用者数と主な公園施設

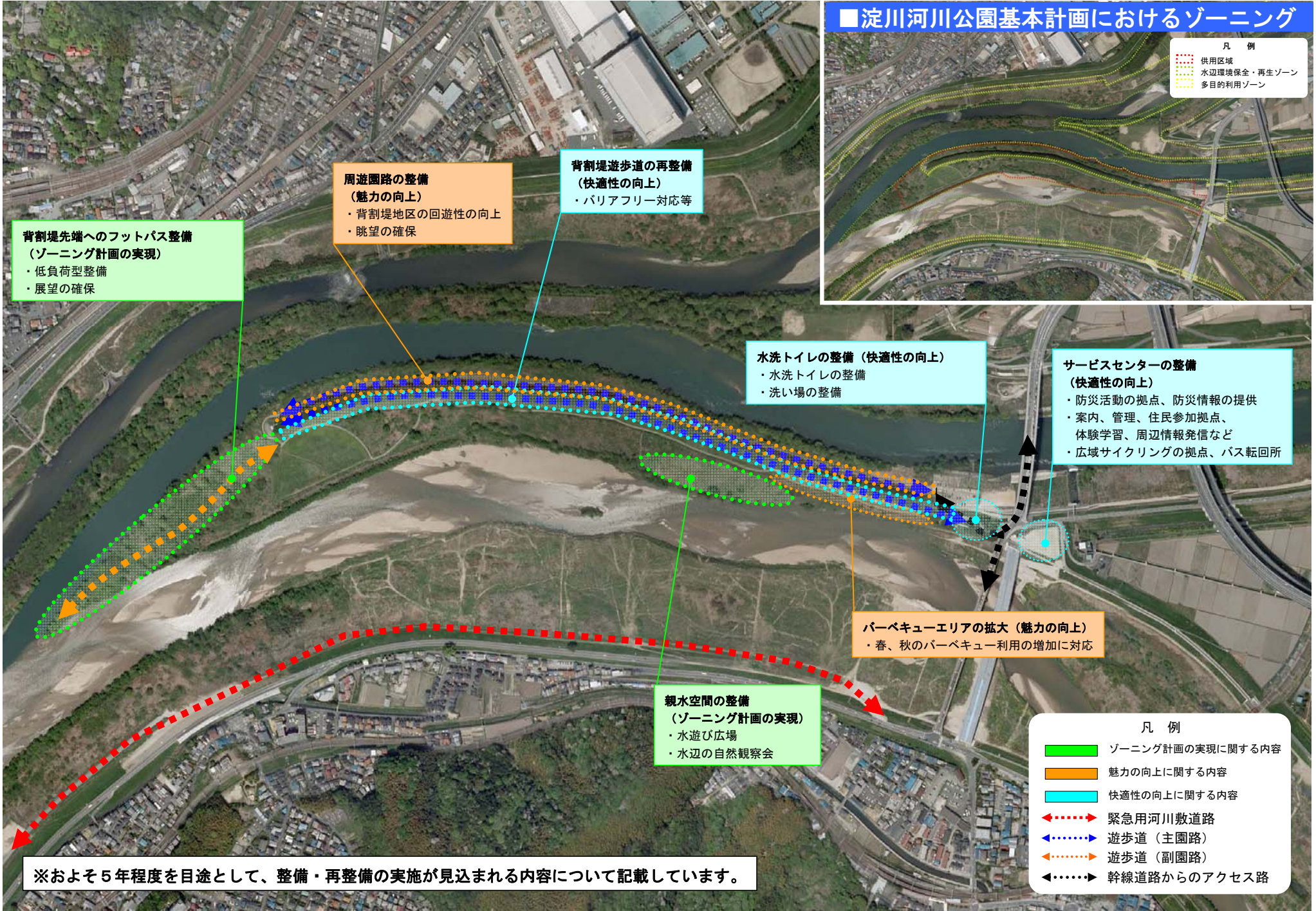
年間利用者数	平成 20 年度年間利用者数 278,501 人 (うち 219,578 人は、4 月(桜まつり実施月)に利用)
主な公園施設	桜並木約 1.4km(桜約 250 本) トイレ 2ヶ所、管理所 1ヶ所

各視点からの現況

	ゾーニング計画の実現	魅力	快適性	つながりの改善
現況	<ul style="list-style-type: none"> 現在の供用区域は、「水辺環境保全・再生ゾーン」と「多目的利用ゾーン」の2つのゾーンで構成されている。 背割堤より宇治川側の多目的利用ゾーンに駐車場が整備されている。 便益施設(管理所、トイレ)は多目的ゾーン内、かつ堤防上に設置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 堤防上約 1.4km にわたりソメイヨシノが並木として植えられており、毎年 4 月の桜まつりには約 20 万人が利用している。 毎年春と秋に民間事業者による無動力船の川くだりが実施されている。 桂川-木津川のサイクルルートの接続部であり、自転車愛好家がよく立ち寄っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 上水道、下水道が敷設されていないため、水は地下水のみであり、非飲用となっている。 背割堤の遊歩道は小舗石舗装であり、車椅子等の通行には不適である。 木津川側の周遊園路の一部に段差が生じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 京阪八幡市駅から約 1km 徒歩約 15 分の距離にあり、左岸側からの公共交通によるアクセスは良好である。一方、右岸側からは路線バスを含め有効な公共アクセス手段は整備されていない。 京都守口線(御幸橋)からのアクセスは左折のみであり、京都方面からは入りにくい。



■ 背割堤地区：整備計画図



※およそ5年程度を目途として、整備・再整備の実施が見込まれる内容について記載しています。

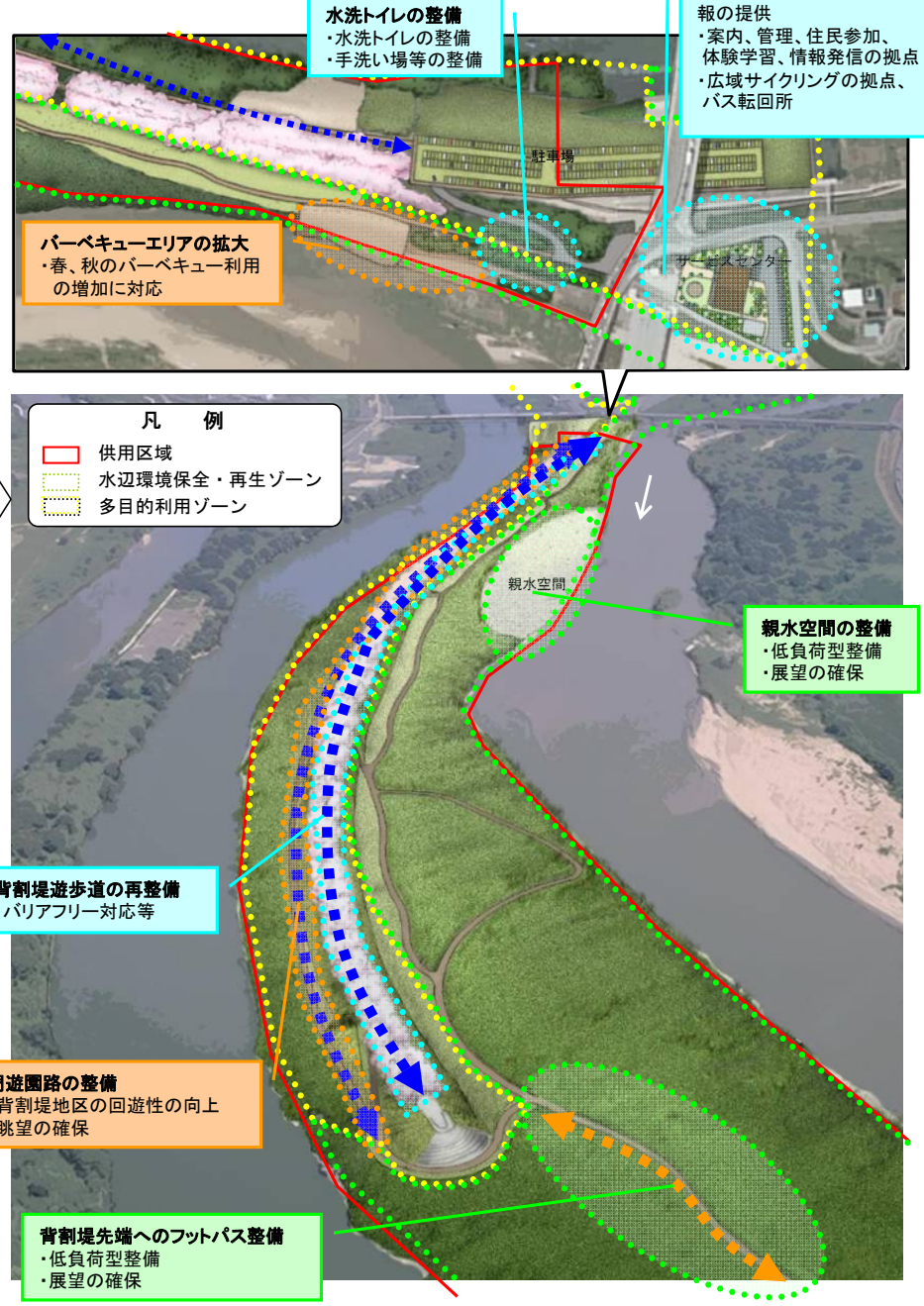
■背割堤地区：主な議題

●主な議題(案)		
提案内容	該当項目	提案理由
背割堤先端へのフットパスの整備	【ゾーニング計画の実現】	<ul style="list-style-type: none"> 現在の背割堤先端部は、樹林に覆われ、合流点を見ることが困難な状態である。 自分の目で川の合流点を見える状態をつくり、魅力の向上を図るため、フットパスを整備する。
周遊園路の整備	【魅力の向上】	<ul style="list-style-type: none"> 現在の園路は、背割堤の堤防上と木津川側の堤防下であり、往復した時の景色の変化に乏しい状態である。 往路復路で宇治川と木津川の違いを楽しめるよう宇治川側に園路を整備し、周遊性を高めることとする。
背割堤遊歩道の再整備	【快適性の向上】	<ul style="list-style-type: none"> 現在の園路は、昭和50年代に整備された小舗石舗装であり、車椅子・ベビーカー等での利用に不適であるほか、複数の場所で破損・欠損が生じている状況である。 景観にも配慮をした上で、園路のバリアフリー対策を実施する。
親水空間の整備	【ゾーニング計画の実現】	<ul style="list-style-type: none"> 背割堤地区の木津川側については、砂州が拡がり、淀川河川公園の中では、水辺へのアクセスが行いやすい状況である。 今後、安全対策を含めて管理方法や利用プログラムを検討の上、水辺利用の推進を図る。
水洗トイレの整備	【快適性の向上】	<ul style="list-style-type: none"> 背割堤地区については、上下水道が敷設されておらず、飲用水の確保も出来ない状況である。 御幸橋の架替えに伴う水道管の敷設に併せ、水洗トイレ・手洗い場所等の整備を実施する。
サービスセンターの整備	【快適性の向上】	<ul style="list-style-type: none"> 上流三川の合流部であり、周辺道路網の整備もあり、三川合流部の周辺へのアクセス性は向上している状況である。 平時の地域交流の拠点機能と災害時の防災拠点機能を併せもった活動拠点の整備を実施する。

※およそ5年程度を目途として、整備・再整備の実施が見込まれる内容について記載しています。

※地域協議会での議論、予算状況等により変更となることがあります。

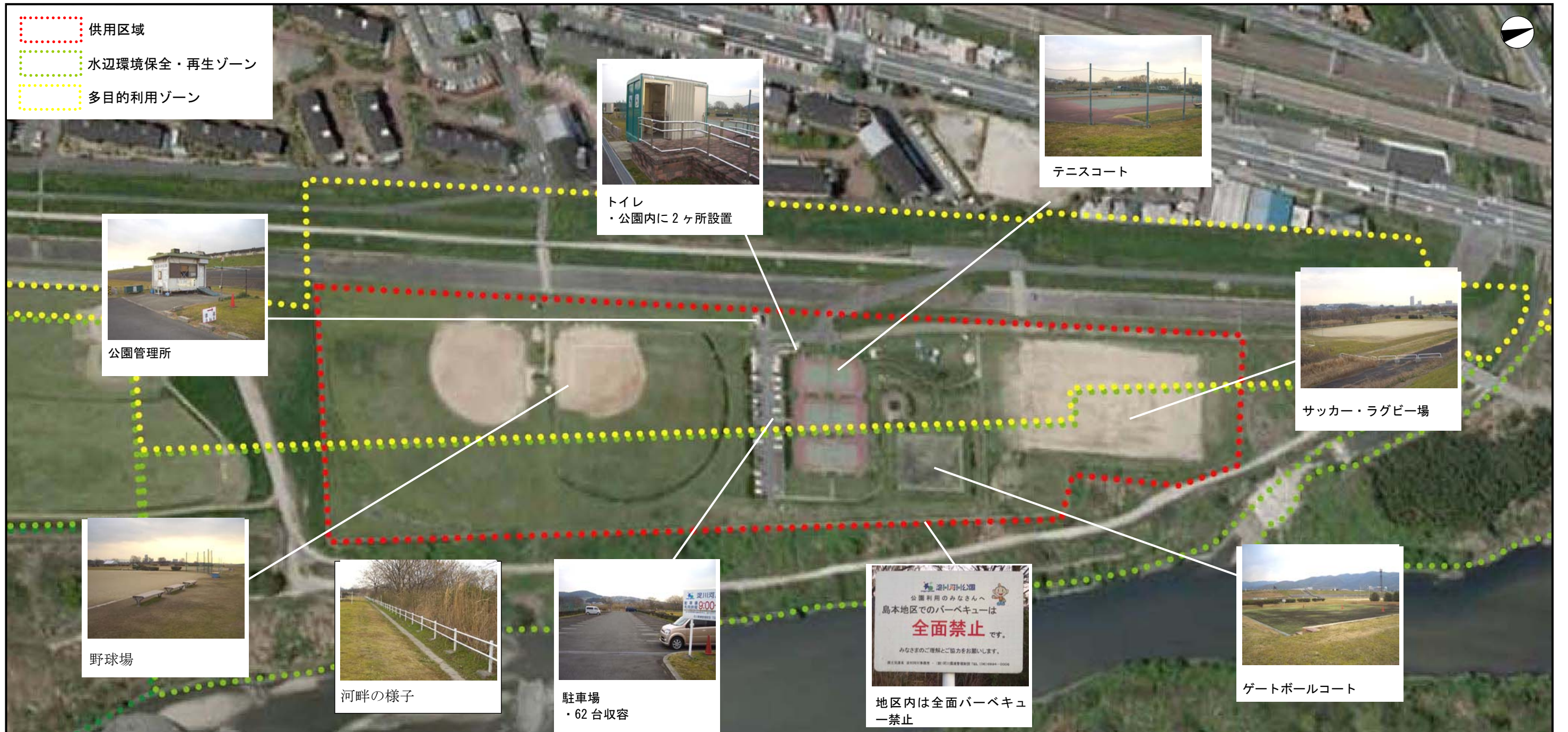
●整備イメージ



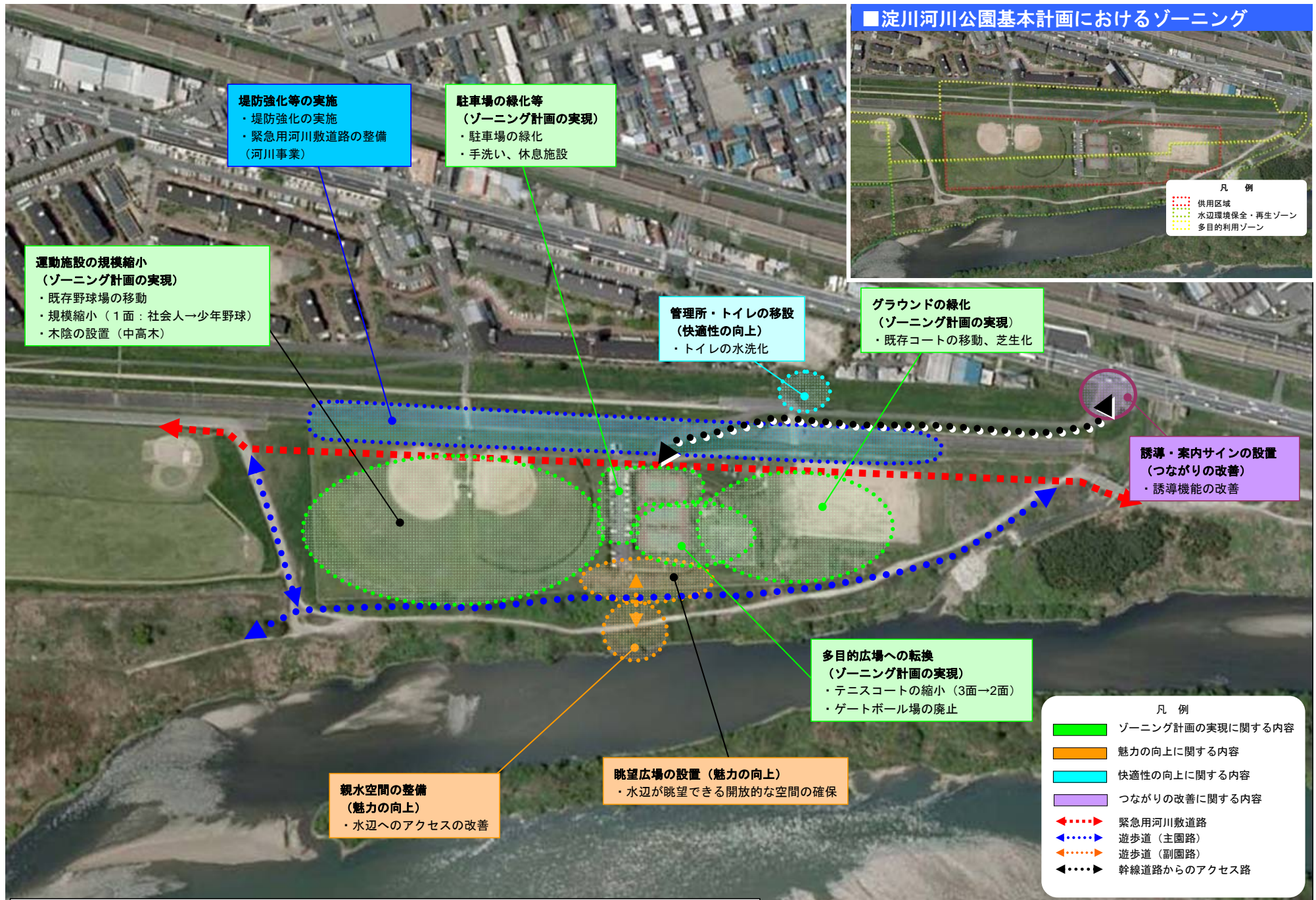
■島本地区の現状

年間利用者数と主な公園施設	
年間利用者数	平成20年度年間入園者数 67,837人 野球場 15,206人 テニスコート 3,188人 サッカー・ラグビー場 11,348人 ゲートボール 0人 ※運動施設は内数
主な公園施設	野球場1面、少年野球場1面、テニスコート3面、 サッカー・ラグビー場1面、ゲートボールコート1面、 トイレ2ヶ所、管理所1ヶ所

各視点からの島本地区の現状				
	ゾーニング計画の実現	魅力	快適性	つながりの改善
現況	<ul style="list-style-type: none"> 現在の供用区域は、「水辺環境保全・再生ゾーン」と「多目的利用ゾーン」の2つのゾーンで構成されている。 テニスコートの一部、ゲートボール場については、「水辺環境保全・再生ゾーン」内となっている。 隣接する堤防の堤防強化とそれに伴い緊急用河川敷道路の整備を行う計画があり、全体的に移設・縮小を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全長約200mの比較的小さいコンパクトな地区内に、野球場、サッカー・ラグビー場、テニスコートなど複数のスポーツ施設が整備されている。 自由に使える芝生広場はない。 バーベキューエリアの設定はない。 	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場の整備時期が古く、利用上の不便さが顕在化してきている。 日陰のある休憩場所は整備されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急用河川敷道路は整備されてなく、川側の管理用道路は、未舗装のため上下流方向へのアクセスはあまりない。 堤防上は、舗装された歩道となっているため、安心して歩きやすい。 国道171号からの自動車での入り口を見逃しやすい。 園内には明確な園路がない。



■島本地区：整備計画図



※およそ5年程度を目途として、整備・再整備の実施が見込まれる内容について記載しています。

■島本地区：主な課題

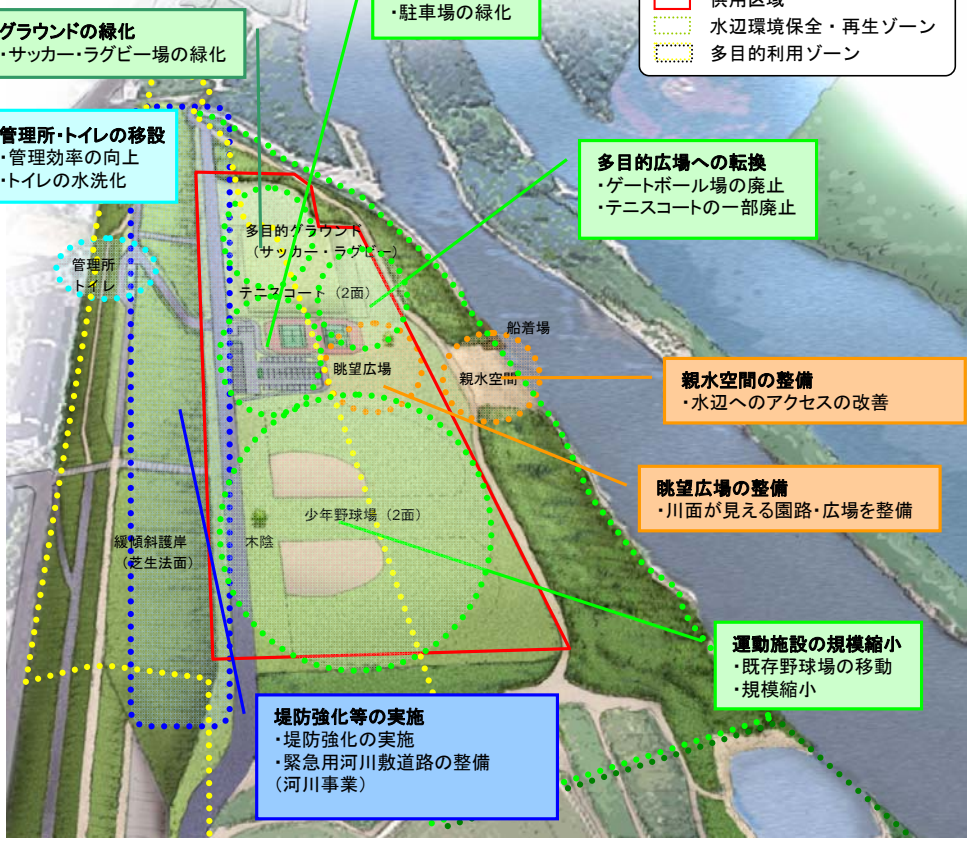
●主な議題(案)

提案内容	該当項目	提案理由
堤防強化の実施、緊急用河川敷道路の整備	【河川事業】	・淀川水系河川整備計画に伴い、堤防の強化及び緊急用河川敷道路の整備を実施する。
運動施設の規模縮小	【ゾーニング計画の実現】	・河川事業に伴い、公園区域の縮小が予定されているため、既存野球場について規模の縮小を実施する。
駐車場の緑化等	【快適性向上】 【ゾーニング計画の実現】	・当初整備から相当年数が経ち、使い勝手が悪いことから、緑化駐車場への再整備を実施する。
親水空間の整備	【ゾーニング計画の実現】 【魅力向上】	・現在、川へのアクセスが無い状況であるため、川への視覚的・物理的アクセスの改善を図る。
眺望広場の設置	【魅力向上】	・川へのアクセスの向上に併せて、眺望のためのスペース及び休憩施設を整備する。
管理所・トイレの移設	【快適性向上】	・管理所を堤防上に移設することで視界を上げ、管理効率の向上を図る。 ・堤防上にトイレを移設し、水洗化を図る。
運動施設の緑化	【ゾーニング計画の実現】	・現在裸地となっているグラウンドに対し利用状況の確認等を行った上で、緑化を図る。
多目的広場への転換	【ゾーニング計画の実現】	・近年、利用者の減少しているゲートボール場について、隣接するテニスコートの水辺環境保全・再生ゾーンと重複する部分と併せて一体的に多目的広場への転換を図る。

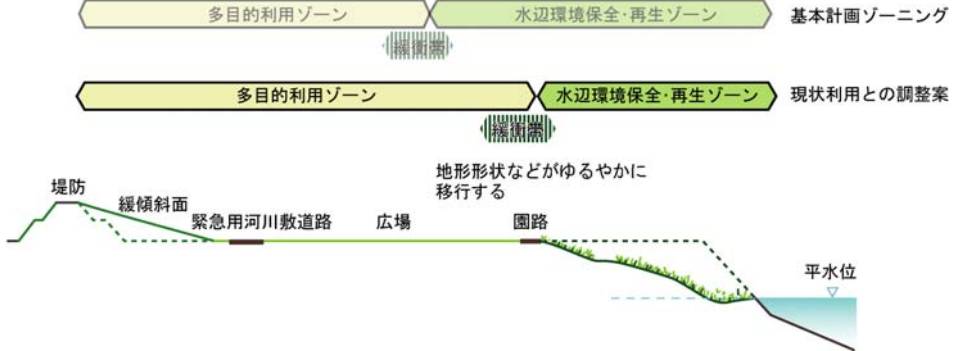
※およそ5年程度を目途として、整備・再整備の実施が見込まれる内容について記載しています。

※地域協議会での議論、予算状況等により変更となることがあります。

●整備イメージ



●整備断面イメージ



3. 参考資料

(1) 上流域の概要

1. 概要

- ・背割堤地区（八幡市）、大山崎地区（大山崎町）、島本地区（島本町）の3地区が供用されている。

2. 特性と課題

<自然・文化>

- ・三川と天王山や男山の緑が一体となった歴史的な景勝地。
- ・日本三大八幡宮の一つである石清水八幡がある。
- ・長岡京、平安京の時代から京都と大阪を結ぶ舟運が発達。また、西国街道、京街道など重要な街道も集まり、門前町として栄えた八幡や、油座を構えた山崎、物流拠点として発展した淀などの町が形成される。

<生物>

- ・ヨシ群落など多様な植物群落が見られる他、鶴殿～三川合流地点では寄州と低水敷が発達。
- ・昆虫、鳥類、魚類等にて、多くの種類の生息が確認されるなど、豊かな環境が現存。

<交通>

- ・当地域周辺では、阪神高速を始め、京滋バイパス、第二京阪などの高速及びそのインターチェンジが多く存在。また右岸側は171号線、左岸側は1号線が京都と大阪を結び、周辺交通量は多い状況。
- ・JR山崎駅、阪急大山崎駅、京阪橋本駅・八幡市駅など複数の電鉄会社の鉄道駅が存在。一方、右岸・左岸を繋ぐ定期的な公共交通は整備されていない。

<観光>

- ・背割堤地区には桜の花見の時期を中心に、年間約20万人（平成20年4月）が来訪。
- ・周囲には石清水八幡宮や松花堂庭園、大山崎荘美術館などの観光資源が数多く存在。



天王山



男山



アオサギ



護岸へのアクセス



舟運



背割堤の桜並木



石清水八幡宮



大山崎山荘美術館

